

西ジャワ州政府の防災担当者が災害科学国際研究所を訪問されました(2018/7/3-4)

テーマ：東日本大震災からの教訓，防災対応，防災対策
場所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2018年7月3-4日，西ジャワ州の防災担当者5名とバンドゥン工科大学（ITB）研究員1名が災害科学国際研究所等を訪問されました。インドネシア中央政府の発表によると今回の訪問は，西ジャワ州は津波リスクが高く，日本の防災対応・防災対策について東日本大震災からの教訓を西ジャワ州に活用することを目的としているとのこと。本訪問に際し，サップシーアナワット准教授（災害リスク研究部門），地引泰人助教（リーディング大学院），林晃大助手（寄附研究部門），東北大学理学研究科の太田雄策准教授が対応しました。7月3日の午前中に当研究所にて東日本大震災について科学技術的な話題提供，意見交換を行いました。午後は宮城県庁の宮城県震災復興推進課を訪問し，発災時における宮城県の緊急対応，復旧復興の説明を受け，意見交換を行いました。特に西ジャワ州防災担当者から「復興の進捗について教えてほしい」という質問に対して，宮城県の担当者からは「インフラストラクチャーの復興の進捗は進んでいるが，まだ道半ばである。例えば，港湾の岸壁の整備はかなり進んだが，魚の加工や出荷といった産業面の復興は，依然として現在進行形で取り組んでいる課題である」といった回答がありました。その後は仙台市沿岸部の津波被災地（旧荒浜小学校，防潮堤，津波避難タワー，嵩上げ道路）を視察しました。7月4日は国土交通省東北地方整備局企画部防災課を訪問し，宮城県と同じように大震災当時の緊急対応，復旧復興の説明を受けた後，西ジャワ州への適用等について議論しました。議論の一例として，道路の復旧・復興における国からの財政的支援のあり方について，法制度の視点からの議論が行われました。今回訪問された西ジャワ州の防災担当者は，応急対応，ロジスティクス，復興担当等のように災害の過程全般にわたっての意見交換や被災地訪問を通じて，全体的に大変活発な議論・意見交換を行うことができ，とても有意義だったと感想を述べられました。



災害科学国際研究所でのセミナー



旧荒浜小学校



宮城県庁の訪問



東北地方整備局の訪問

文責：サップシー アナワット（災害リスク研究部門）
地引康人（リーディング大学院）
林晃大（寄附研究部門）